

ZENBUTSU



全仏

No.
543

仏暦2551年10月
[2008年]



布薩堂では朝と夕方の定刻に読経が行われる カンボジア 撮影 田村 仁氏

目次

- 第24回世界仏教徒会議日本大会特集 ②
- 加盟団体をゆく 第19回 群馬県仏教連合会
- 韓日交流—心のかけ橋— ③
- 総務財政審議会一部答申提出
- 賛助会員制度について ~9月15日より賛助会員制度がスタート~
- 靖国参拝の抗議文提出
- 千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要
- 日本大会シンポジウム詳細、参加者募集要項

第二十四回世界仏教徒会議日本大会特集 ②

日本大会の概要・開催要項について

国際部

地域の縁、アジアの縁

昨年、全日本仏教会は財団創立五十周年を迎え「地域の縁、アジアの縁」そして世界へ、の統一テーマの下、財団創立五十周年記念式典、第四十回全日本仏教徒会議を記念事業として開催しました。

この度の世界仏教徒会議日本大会においても、生きとし生けるものすべてが関連し、共に支え合っているとする仏教の「縁(起)」の教えについて、会議・行事を通じてその意義を広めて参ります。

仏教者と社会問題

今大会では、世界の様々な地域・国々で、悩み・苦しみの中にいる人々の輪の中に自ら飛び込み、その苦しみを共有し、同じ目線で接する中で解決への努力を続けておられる仏教者・仏教学者三十五名を、シンポジウムのパネリストにお招きしました。

十一月十五日の午前中には、ヘ

レナ・ノルバーク・ホッジ氏(スウェーデン・言語・人類学者)製作による映画を上映します。

映画では、世界各地の人々の証言に基づき、地球環境への配慮の視点から、地域社会に密着した経済のあり方を紹介していきます。



映画製作者 ヘレナ・ノルバーク・ホッジ氏
活動の舞台であるヒマラヤをバックに

映画の上映を受けて、パネリストのアリヤラトネ氏(スリランカ・仏教社会活動家)、ジョアンナ・メーシー氏(米国・仏教学者、環境・社会問題活動家)、湯川れい子氏(作詞家・音楽評論家。環

境問題にも積極的に関与)、以上三名によるゲストトークを行い、それぞれ実践的立場から環境・社会問題と仏教の関わりについて議論を深めます。

午後からは二部に分けてシンポジウムを開催します。

第一部では一、平和・紛争問題。二、仏教的社会開発。三、終末期医療。四、ジェンダー。以上の四つのパネル。

二部では一、自殺。二、子ども・青少年問題。三、環境・地球温暖化。以上の三つのパネルを行います。

その後、シンポジウムでの論議の成果も踏まえて、世界仏教徒連盟(WFB)の九つの常設委員会が開催されます。

そして翌日十六日のWFBの全体会議に於いて各委員会からの報告がなされ、本大会の成果を広く一般に発表するため記者会見を開く予定です。

世界平和法要

…手を合わせ、心を合わせて隅田川での漁の投網にかかった

身の丈五・五センチの聖観音像を、二人の漁師と村の識者の三人が安置したのが浅草寺の始まりと伝えられています。

以来、浅草寺はいつでも門戸が開かれ、約千四百年の間、地域の多くの人々の心の支えとなってきました。

それが先の戦争の空襲で、本堂(観音堂)が跡形もなく灰燼に帰しました。本尊は幸い本堂地下に埋められていて無事でした。

人々は戦後の混乱期で自分の生活も困難な中、思い思いに浄財を寄せて現在の本堂が再建されたのです。その額は当時で四億円といわれています。

戦争によって無惨に打ち砕かれた本堂は、人々の温かい気持ちのご縁となつてつながり、大きな力となつて再び築かれたのです。

今年はその本堂が再建されて五十年になります。

十一月十六日、午前十一時より、この平和の象徴とも言える浅草寺本堂で、世界の全ての人々の幸せのために厳粛に法要が営まれます。



再建五十年を迎えた
浅草寺本堂

この法要は浅草寺、浅草の観光連盟、商店連合会の皆様、ボーイスカウト、浅草・下谷をはじめとする地域仏教会の皆様、そして東京都仏教連合会の地域の皆様の温かいご縁の力も頂いて行われます。

地元の子供達の稚児行列を先頭に、各国から参加した仏教者が伝法院を出発し、国際通りを経て、仲見世商店街を通り、本堂までお練りを致します。

本誌をご覧の皆様全てが、この法要に参列頂くことは叶いませんが、十一月十六日午前十一時には、日本各地の御寺院、檀信徒、一般仏教徒の皆様が心を一つに

し、全ての生きとし生けるものがいつまでも平和に、また幸福に暮らせるよう、合掌礼拝頂ければ幸いです。

「苦集滅道」と日本大会

釈尊は、悩み苦しむ：「苦」には必ず原因「集」があり、その解決のための方法「滅」を見いだして、日々自らが精進せよ「道」という、四（聖）諦の教えを説かれました。

今大会も、総会・開会式（問題の認識）、シンポジウム・各種委員会（問題の原因の探求・解決方法の検討）、全体会議（方向性の決定）、世界平和法要（参加者による実践）という、四諦の教えに沿ったものとなっています。

また関連行事として十一月十七日の最終日には、奈良・東大寺において、全日本仏教青年会主催による、千僧法要供養が海外からの代表の参加も得て行われます。

そして、この大会で示された成果が、今後の本会、日本各地の寺院、WFB（世界仏教徒連盟）各国センターおよび関係諸国の仏

教者の新たな活動の契機となり、更には宗教の枠を超えて広く一般社会へ、そして未来へと及ぶことが期待されます。

WFBソング

「私達の親交の目的は、この世界の和合です。

いかなる壁や国境も私達の深い親交を損なうことはできません。

様々な仏教団体や流派は、友情、平和、思いやり、そして平穩を实とする、巨大な木の枝々です。

私たち仏教徒の目標は、貪り、怒り、妄想をやめ、全てのもの思いやりを持って接し、万人の平和のため励むことです。」（原文は英語。仮訳）

仏教は、釈尊が開かれて以来二千五百年の月日の間に世界の各地で様々な姿で展開を遂げました。

そして常にその地域の人々の日々の生活と共にあり、それぞれの時代の人々の生きる支えとなって今日まで伝えられてきています。

今回、こうした世界の様々な地域、国々からの仏教者が日本に三十年ぶりに集い、開会式でこの歌

を唱和し、諸行事を通じて心をつないでいきます。

関係各位におかれましては、大会開催にあたっての尚一層のご理解とご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

第二十四回世界仏教徒会議 開催要項

（二〇〇八年九月二日改訂版）

一．会議

第二十四回世界仏教徒会議

（主催 世界仏教徒連盟

WFB）

第十五回世界仏教青年会議

（主催 世界仏教青年連盟

WFBY）

第七回世界仏教大会議

（主催 世界仏教大学 WBU）

二．テーマ

財団創立五十周年記念事業統一テーマ

一．マ

「地域の縁・アジアの縁」そして

世界へ

第二十四回世界仏教徒会議テーマ

「Buddhists Contribution to Re-

solving Social Problems... 仏教者の社会問題解決への貢献」

三、会場

浅草ビューホテル（会議）

浅草寺（世界平和法要）

四、日程

十一月十四～十七日

（十三日より準備会議等開催）

十四日（金）

午前 総会（執行役員選挙等）

午後 開会式

世界仏教徒会議第一回全体

会議（会長・副会長選挙等）

人権セミナー（担当者対象）

夜 歓迎懇親会

※WFBY・WBU・日本側会議

併催

十五日（土）

午前 環境問題に関する映画上映

ゲストトーク

午後 シンポジウム（二部七パネル）

ル）

一、平和構築

二、仏教的社会的開発

三、終末期医療

四、ジェンダー

五、自殺

六、子ども・青少年

七、環境

WFB常設委員会（九部会）

研修セミナー

夜 交流懇親会

※WFBY・WBU・日本側会議

併催

十六日（日）

午前 世界平和法要（浅草寺。仲

見世商店街お練り行列）

午後 世界仏教徒会議第二回全体

会議（総括）

夜 記者会見・閉会式・懇親会

※WFBY・WBU会議併催

十七日（月）

参加者離日

※ シンポジウムに関する詳細は

本誌裏面十二頁及びホームページ

に掲載させて頂いておりま

す。（参照下さい）。

<http://www.jbfn.jp>

加盟団体をゆく

《第十九回》

群馬県仏教連合会

今回は、群馬県仏教連合会事務局を訪ね、若槻繁隆会長（退魔寺住職・全日本仏教会副会長）及び、土佐信孝事務局長にお話を伺いました。

群馬県仏教連合会の事務局は、更生保護法人群馬県仏教保護会と事務局を共にしています。

いる活動としては、大正二年から更生保護施設を運営しています。もう少して百年になります。

収容者の自立更生と快適な生活環境の維持に日夜努力し、先師・先徳の高邁なるご意志に沿って懸命に努力しているところでありま

す。こうした中で、平成十七年には収容者の住環境の整備を自費でもって完成することが出来ました。その後、保護観察所のご指導を



若槻繁隆群馬県仏教会会長（左）
土佐信孝事務局長（右）

― 仏教会の活動で、力を入れていらっしゃる点についてお聞かせ下さい。

本仏教会が世俗的に取り組んで



大正二年からの歴史をもつ
更生保護施設

頂き、本年度には厨房・食堂・トイレ・浴室・会議室・面接室・一部宿泊室増設等々、全面改修の方向で設計打合せを法務省及び関係団体と検討を重ねているところでもあります。

また他には、群馬県下にある「県宗教団体連合会」（神社庁・天理教・仏教連合会・新宗連等が加盟）では、隔月に理事会を開いております。



群馬県宗教団体連合会研修会

実務研修会として、同和問題等の講話を聞く「一泊研修会」や、先進地視察のため「先進地視察研修旅行」を、昭和四十年より毎年

実施し、更に毎年、群馬県と慰霊会とが合同で、沖縄県への戦没者慰霊参拝にも参加しており、これも四十年ほど続いています。特に大きな事業としては、昭和六十年に起きた、日航機墜落事故のご供養を全て行いました。

当時、ご遺体が発見されてから、総動員で全てのご宗旨を聞きご供養を行い、亡くなった全ての方の名前を刻んだ「慰霊碑」も建立いたしました。

―今後の仏教界の在り方について、指針をお聞かせ下さい。

近年、我々を取り巻く情勢は大きく変化してきています。もつと言えば、世界的地球規模での激動の始まりではないかと考えるのは思い過ぎでしょうか。

本来「人の心を救うべき宗教」が何も努力しないで、教義を自己流に解釈しているのか、自己中心に陥っているのを戒めているのではないかと思われてなりません。

そこで、宗教者はその「心を救う」原動力とならなければならぬ

い責任があります。

先師・先徳の各宗派を超えて団結し行動してきた力を受け継いで、社会浄化に努力しなければならぬ責任が我々に課せられているのだと思います。

―昨今の様々な社会問題について、感じていらっしゃる思いをお聞かせ下さい。

とりわけ、昨今の事件は想像を絶するものがあります。これが世界で最も恵まれた安全な国と言われた有り様とは思われません。

現在、犯罪を犯した人たちを収容する刑務所は百二十パーセントを超えています。


可愛いはずの我が子の命を無惨に奪う事件、厳しい躰の親を恨んで殺す子ども、社会的にも優れた人の知的犯罪等々、数え上げればきりがなく、毎日毎日マスコミに、これでもかこれでもかと報道される有り様は、国が変わってしまっただのかと思えてなりません。

このままでは良くないと誰でも考えています。何とかしなければと

思っているのです。

今こそ、我々宗派を超えた宗教者が団結して力をまとめ、更なる活動を活発化して力を発揮していきたいと思っています。

(談)


 御用達
 総本山

像・具・仏・壇・衣・法
 与・授・束・装・貸・術・美・古

上田法衣佛具店

〒604-0913 京都市中京区河原町二条西入上ル
 電話(075) 221-3348(代表)
 フリーダイヤル 0120-07-3348
 FAX(075) 221-1858

韓日交流―心のかけ橋― ③

俳優 黒田 福美

「災害にあっても『族譜』という家系図だけは抱えて逃げる」という逸話のとおり、朝鮮民族は日本人以上に家門や名前を重んじる。

しかし第二次世界大戦に至る過程において日本は植民地であった朝鮮半島に対して、「内鮮一体」のスローガンのもと朝鮮人を「皇国臣民」に改造すべく、まず本来の朝鮮名を日本風に改めるといふ「創氏改名」を行った。例えば「金某」を「金田某太郎」というように。

断固として民族の名前を守ろうとする人達もあったが、そのような人は「不逞鮮人」として取り締まられ、獄死することさえあった。

日本統治下の貧しさと厳しい弾圧のなか、なんとか生き延びようとすれば「朝鮮名を捨てる」という日本国の国是に従わざるを得な

かった。そしてほとんどの朝鮮人がやむをえず日本名に改名していった。

戦局が悪化すると日本は、朝鮮半島からも軍人・軍属としての人材を募った。「日本人として祖国（？）日本のために戦う」ことを強いたのだ。その結果、多くの朝鮮の人々が日本はもちろんのこと、サハリンやロシア、南の島々などで日本人として命を落とした。朝鮮人でありながら日本名のみまで。

「同じ日本人として」という美名のもとに戦争に駆り立ておきながら、実際のところ朝鮮人が日本人と同じような待遇を受ける筈はなかった。民族差別による虐待や賃金の格差。

そんな理不尽にまみれつつ、日本名で日本人として死んでいかねばならなかった人々の無念、彼等の故国や家族への思いはいかばか

りであったろうか。

日本人の遺骨収集すらままならないというのに、まして朝鮮人でありながら日本名で亡くなり、世界各地にちらばる朝鮮人犠牲者の解明と捜索は困難を窮めている。いや、不可能と言わざるを得ない。彼等の魂はいまも慰められぬまま、むなしく虚空を彷徨っている。

私は四半世紀に亘って日韓のいわゆる「架け橋」になろうとしてきた。多くは文化交流を糸口にして「お互いを知ることと理解しあえる」というスタンスを貫いてきた。

もちろん私は戦後世代であるが、今「人として」このことに触れずにはおれなかった。そして多くの朝鮮人犠牲者の魂が帰郷してくれることを願う「帰郷祈念碑」の建立を決意したのだった。

これが日韓「和解」の糸口とは言わずとも、ささやかなきっかけにでもなってくれたらと願っていた。ところが祈念碑除幕当日、「親日派許すまじ」のシユプレヒコールの中、この石碑建立に反対する

市民団体と警察機動隊が私たちを制圧し、除幕式は中止された。

戦争の悲劇を繰り返さぬ事を願う、かつての日本の仕事を詫びたいという思いで石碑を建立した私たち、そしてその意に賛同して除幕式に集ってくださった日本から参列してくださった皆さんは石碑に近づくことも許されず、虚しくも追いやられた。



撤去され、再建を待つ石碑

しかし反対派と機動隊は一体何に反対し、何を鎮圧しようとしたのだろうか。私たちは朝鮮を弾圧した当事者でもなく、ただ日本人として過去の日本の行いを済まなく思い、二度とこのようなことを

繰り返さぬという願いをはるばる海を越えて表現しようとやってきただけなのに。

私たちの思いが通じなかったことはひたすら残念ではある。けれどいつかきつと私たちの思いが理解される日がくると信じている。

石碑はあつと言う間に撤去されてしまったが、石碑は今、私たちの真意を理解してくださる近隣の「あるお寺」に保護され、再建される日を待っている。このような難しい状況下、私たちの慰霊の心を理解してくださるお坊さまがいちしたことは大きな救いであつたと感謝に堪えない。

残念な結果にはなつたが、それほどに私たちの罪が深いということなのかもしれない。そう思つて、倦まず弛まず、ただ誠実に犠牲者の魂が帰郷する場所を求めて行こうと思う。

どうか迷える私たちをお見守りくださり、知恵と不動の勇氣をお授けくださるようお願いいたします。

プロフィール

黒田 福美（くるだふくみ）

俳優

東京都出身。

東京都立豊多摩高等学校、桐朋学園芸術短期大学演劇学科卒業。

※韓日交流―心のかけ橋―（終）

人権セミナーを開催

十一月十四日、WFB日本大会会期中に「韓日交流―こころの架け橋―」をテーマに、加盟団体の人権担当者を対象とした人権セミナーを浅草ビューホテル内にて開催いたします。

セミナーには、本コーナーに執筆頂きました俳優の黒田福美さん及び洪鍾秘教授に講師として参加頂き、さらなる日韓友好を進めるためにはどのような問題があるかを学ぶ好機と致します。

セミナーに関するお問い合わせは全日本仏教会 社会人権部までお願いいたします。

タイ王室後援

「国際版パトリ大蔵経」贈呈式典

九月十日午後一時半より大阪・四天王寺に於いて、タイ王室チュラポン王女殿下ご臨席の下、「国際版パトリ大蔵経」贈呈式典が行われた。

この三蔵経四十巻は一九五六年にミャンマーで開催された第六結集で定められたものを元に、現存する全ての三蔵経を参照して五年後に完成し、二〇〇五年にはコンピュータに入力を終了。故ガリアーニ王女殿下の後援の下、世界各国の図書館・研究機関に贈呈が続けられている。

今回の贈呈では、王女の曾祖父、チュラロコン・ラーマ五世国王が百十五年前に日本贈られた『シヤム文字版三蔵経』を所蔵する研究施設七ヶ所に加えて新たに、七ヶ所の図書館等に贈呈された。

式典では、三蔵経のパリ語、英語、日本語の三ヶ国語による読誦に続いて、贈呈を受ける関係者が一巻ずつ経典を持って本堂へ入場し、内陣本尊前にそれぞれ安置

した。

そして王女殿下入場の後、四天王寺管長および式衆による法要がつとめられ、武覚超比叡山執行より日本側を代表して挨拶が行われた。

次に王女殿下より、日本とタイ国の長い友好の歴史と今回の贈呈への思いの込められたご挨拶に続いて、王女より関係機関の代表へそれぞれ三蔵経が直接手渡された。



王女より研究機関関係者へ贈呈

最後に大谷哲夫駒澤大学総長および、和中原雄国立国会図書館関西館館長（代理）より謝辞が述べられた。

総務財政審議会が理事長諮問の一部を答申 ―九月十五日より賛助会員制度がスタート―

去る九月十二日に本会事務総局

理事長室に於いて、総務財政審議

会松山英照委員長並びに近藤真道

副委員長より、豊原大成理事長並

びに深澤信善事務総長に、総務財

政審議会への理事長諮問の一部が

答申された。これを受けて、賛助

会員制度の運用が開始される。

尚、答申の内容は以下のとおり。

答申書(一部)

第二十八期設置の総務財政審議

会では四つの諮問事項について審

議を進めております。その内の一

つである以下の諮問事項につい

て、本年十一月に開催する世界仏

教徒会議日本大会を鑑み、優先的

且つ慎重に審議を進めてまいりま

した。本審議会は理事長諮問の一

部を以下の通り答申致します。

諮問一

賛助会員制度の運用について

本年三月二十七日に開催された

理事会・評議員会(第二十七期)

に於いて、賛助会員規程が承認さ

れ四月一日から施行されました。

今期審議会では賛助会員規程を踏

まえて、賛助会員制度の目的を加

盟団体にご理解いただくために、

また運用に関する手続きの精査

等、事務総局から提示された案件

に基づいて、審議を重ねてまいり

ました。

その結果、賛助会員の枠組みは

① 個人 人↓一般社会に対して

本会を認知していただくことに

主眼を置く。

② 団体 体↓本会の運営や広報

を支援していただくことに主眼

を置く。

③ 特別会員↓本会事業の一つで

ある「組織強化」に主眼を置く。

賛助会員の会費(二口一万円)は

① 個人は一口以上

② 団体の営利法人は三口以上、

非営利法人は一口以上

③ 特別会員は二口以上

以上のとおりと致します。

つきましては、別紙の賛助会員

入会の案内状、細則、要綱、申込

書、推薦書等を添付致します。こ

の度開催されます世界仏教徒会議

日本大会を契機として、伝統教団

のもつすばらしさを社会に広報

し、さらに宗教(仏教)の公益性

を高める為の方策としても、早急

に賛助会員制度をスタートさせる

ことを望みます。

以上



松山委員長から豊原理事長へ答申の一部を提出。
(手前は近藤副委員長)

財団創立五十周年記念事業

特別協賛金寄付者名

(八月十八日～九月九日)

室生寺 梶山祐弘・常福寺

地福寺 鎌田良昭・松家宣崇

光明寺 田中文教

精明寺 疋田哲壽

大乘院 和田龍宏

立正大学学園

長圓寺 不破 仁

隆光寺 山本弘詔

本昌寺 中村昌之

(順不同・敬称略)

合計 六七〇、〇〇〇円

ご支援誠にありがとうございます。

更なる皆様のご支援・ご協

力をお待ち申し上げます。

【郵便振替】

口座番号

0013016137600

口座名義

財団法人全日本仏教会

【銀行振込】

三井住友銀行 浜松町支店

口座番号

普通 7082913

口座名義

財団法人全日本仏教会

賛助会員制度の運用開始について

全日本仏教会第二十八期理事長 豊原 大成

謹啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より本会諸事業に対して格別のご高配を賜っておりますこと、衷心より御礼申し上げます。

本年五月二十六日に総務財政審議会に四つの理事長諮問を行いました。審議会では、本年十一月に開催する世界仏教徒会議日本大会の推進を鑑み、まず諮問一の「賛助会員制度の運用について」優先的に慎重審議を重ね、今期三回開催した審議の経緯を踏まえて諮問一につき、九月十二日に総務財政審議会松山英照委員長並びに近藤真道副委員長より答申を頂きました。また審議会では、答申の内容の他、標記制度を運用する際の書類整備に関しても併せて審議され、答申書に添付を頂きました。

依って賛助会員制度を九月十五日より運用を開始致したく、加盟団体の皆様方におかれましては、それぞれの事務所に郵送致しました書類一式をご高覧頂きたく存じます。

また、個人の入会にあつては、入会希望者の菩提寺のご推薦を頂くことになりました。全国各ご寺院におかれましては、ご法務繁多のところ誠に恐縮と存じますが、賛助会員制度の趣意をお汲み取り頂きまして、宜しくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

本会事業の充実を図る為、或いは伝統教団のもつすばらしさを社会に広報し、さらに宗教（仏教）の公益性を高める為の方策として、賛助会員制度のご理解と勧誘にご協力賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

合 掌

※お知らせ

本会ホームページから賛助会員要綱・申込書などを閲覧・プリントアウトできます。ご覧頂きまして、是非ご入会下さい。
<http://www.jbf.ne.jp>

全国のご寺院にお願い

個人の入会にあつては、入会希望者の菩提寺の推薦を頂くことになりました。加盟団体傘下の各ご寺院の皆様にはご負担をおかけいたしますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

「救援基金」寄付者一覧

(八月十九日～九月五日)

延命寺

岐阜県仏教会

一隅を照らす運動総本部地球救援事務局

(順不同・敬称略)

合計 一、七〇六、一八四円

ご支援誠にありがとうございます。しました。

仏教界挙げての人的活動の為、ひきつづきご協賛のほどよろしくお願い申し上げます。

※救援基金の送付先

【郵便振替】

口座番号

00110191704834

口座名義 全日本仏教会救援基金

【銀行振込】

中央三井信託銀行 本店営業部

口座番号 0973031

口座名義

財団法人全日本仏教会

御本山御用達 開明社員

井筒法衣店

代表取締役社長 幾田 潤

(〒600-8503)京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)

フリーダイヤル TEL 0120-075-720

フリーダイヤル FAX 0120-075-490

「閣僚の靖国神社公式参拝に対する抗議」文を提出

八月十五日、靖国神社へ三人の閣僚が参拝を行った事から同月十九日、本会は抗議文を提出した。福田康夫内閣総理大臣宛の抗議文は、岩城光英内閣官房副長官へ読み上げ後手交。閣僚三名への抗議文は同日衆議院議員会館の各事務所へ提出。

閣僚の靖国神社公式参拝に対する抗議

過日(二〇〇八年八月十五日) 福田内閣の閣僚三名が靖国神社に参拝されたことに対し、全日本仏教会として強く遺憾の意を表明いたします。

私たち全日本仏教会はこれまで再三(本年は八月一日付)にわたり、「首相及び閣僚の靖国神社公式参拝中止の要請」を行ってまいりました。

私たち仏教徒は、釈尊の御教え、いのちの尊重、慈悲の精神に反して、戦争にかかわったことへの反省の上に立って、争いのない世界を目指して活動してまいりました。そして、戦後の日本が平和社会実現にむけて努力してきたことに誇りを持つと同時に、これからも国際社会で平和の実現に向け活躍すべきと願うものであります。

首相及び閣僚は、とくに憲法に定められた「信教の自由・政教分離・戦争放棄」の原則を遵守し、世界平和貢献のため指導的立場を貫くべきであります。今回の参拝はその使命を自ら放棄するものであり、広く国民の願いを無視するものであります。

よってここに強く抗議すると共に、今後は靖国神社参拝を中止されますよう強く求めます。

二〇〇八年八月十九日

財団法人 全日本仏教会

理事長 豊原大成

内閣総理大臣

福田康夫 殿

千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要開催される

八月十五日、日蓮宗主催「戦没者追善供養並びに世界立正平和祈願法要」が、小松浄慎日蓮宗宗務総長を導師に執り行われた。

会場には、僧侶檀信徒のほか一般の参列者約四百人が参列。六角堂の中央に安置された陶棺に向かい声明、読経、修法を行い、表白文にて戦没者諸精霊に追悼の意を表すとともに、世界平和を祈念した。

続いて参列者全員による焼香が行われた。本会からは、奈良慈徹総務部長が参列した。

日蓮宗では、昭和三十四年に千鳥ヶ淵戦没者墓苑が建立されて以来、毎年八月十五日に二度と戦争を繰り返してはならないという決意のもと戦争の犠牲となった霊に供養の誠を捧げ、世界平和の実現を祈る法要を行ってきた。今年は五十回目の節目の年となった。

九月十八日には浄土真宗本願寺派主催の「第二十八回千鳥ヶ淵全

戦没者追悼法要」が執り行われ、中村澄枝広報文化部長が参列した。

法要に先立ち、「つどい」では、築地別院豊原大成輪番(本会理事長)の開会挨拶の後、仏教讃歌の斉唱、献華、本多静芳師による記念布教、宗門関係学校生徒代表による作文朗読、各国大使からのメッセージの披露が行われた。

法要は、不二川公勝総長を導師として、大谷光淳新門ご臨席のもと厳粛に執り行われた。仏教讃歌及び恩徳讃は参列者全員での唱和が行われた。

浄土真宗本願寺派では、二〇一一(平成二十三)年に、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要をお迎えするにあたり「世のなか安穏なれ」をスローガンとして掲げており、今回の法要を通じて今後も「非戦・平和」、「いのちの尊さ」を訴え続けていく不断の努力を重ねてゆく。

事務総局録事

八月(十一〜三十一日)

十二日▼ICS打合せ

十五日▼日蓮宗「戦没者追善供養

並びに世界立正平和祈願

法要」参列(於 千鳥ヶ

淵)

▼政府主催 全国戦没者追

悼式参列(於 日本武道

館)

十九日▼服部融宣前常務理事本葬

儀参列(於 鎌倉)

▼「閣僚の靖国神社公式参

拝に対する抗議」文提出

の為首相官邸及び衆議院

議員会館訪問

二十日▼第三十九回部落解放・人

権夏期講座参加(於 高

野山 至二十二日迄)

▼WFB大会上映の映画字

幕担当者と打合せ

二十二日▼JTB・ICS打合せ

二十六日▼新公益法人制度に関す

る説明会参加(文部科

学省主催、及び内閣府

主催)

▼鳥取県仏教連合会会長

来局

二十七日▼局内会議

二十八日▼大和証券主催「公益法

人制度セミナー」出席

▼無料法律相談室

二十九日▼浅草商店連合会・浅草

観光連盟訪問

九月(一〜十日)

一日▼松下電器東京支社訪問

四日▼BNN企画委員会出席

▼第五十四回「同宗連」研修

会出席(於 真言宗豊山派

宗務所)

八日▼日本記者クラブ会場下見

▼インド・ヒンドゥー協会事

務局長来局

九日▼局内会議

十日▼日本宗教連盟理事会出席

(於 神社本庁)

▼タイ国主催 大蔵経贈呈式

出席(於 四天王寺)

▼本会元副会長 成田有恒師

密葬参列(於 増上寺)

▼仏教英語プログラム

▼浅草商店街・浅草観光連盟

訪問

機関誌『全仏』

広告募集のお知らせ

機関誌『全仏』は、月刊一万部発行され、全日本仏教会加盟団体の各寺院をはじめ、多数の方に購読されております。(年十回発行) 九月号(No.五四二)より、『全

仏』誌に広告を掲載させて頂いて

おります。広告掲載ご希望の方

は、左記全日本仏教会事務局ま

でお問い合わせ下さい。

全日本仏教会 広報文化部

電話 03-34337-9275

FAX 03-34337-3260

Eメール

kouho@jbf.ne.jp

※ 掲載内容により、若干の変更、もしくは掲載をご遠慮頂く場合がございます。ご了承ください。

哀悼

成田有恒師(本会元副会長)

大本山増上寺法主

九月六日遷化 八十六歳

本葬儀 十一月四日十四時

於 増上寺

祈りの世界 ⑥カンボジア

カンボジアはポル・ポト時代の宗教弾圧によって仏教は完全に消滅した。内戦が終決し新政権が樹立されると、民衆の心の中に深く生き続けたきた仏教の再建築にいち早く着手した。カンボジアの在家信者にとってお寺や僧侶たちの生活を支えることがなにより生き甲斐であり、仏教寺院や僧侶の存在は人々の日常生活の中で大事な位置を占めている。一度消滅した仏教をほぼ平和時の姿にまで復興され、この国にはやはりさらびやかな仏教寺院や黄衣をまとった僧侶の姿が一番よく似合っているように感じられた。

(文章及び写真 田村 仁氏)

無料法律相談室

長谷川正浩顧問弁護士による、無料法律相談を毎月第二、第四木曜日の午後開催しております。本会事務総局03(3437)9275へ事前予約の上おいで下さい。



バイヨン寺院の観音菩薩像

